



令和2年度 学校だより

# はがきた

第12号 令和3年2月26日

## 教育目標

集中して学び、生命と人権を守り、生きる力の基礎を身に付けた子どもを育成する。  
『学ぶ子 守る子 がんばる子』



## 今学期、残すところあと1か月となりました

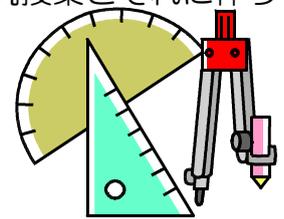
朝はまだまだ寒いですが、日中はだんだんと暖かくなってきました。寒暖の差が多く、体調を崩してしまいがちな季節ですが、保護者の皆様にはますます御健勝のことと思います。令和3年が明けたと思ったらもう2月も終わり、今学期はあと1か月あまりとなりました。「2月は逃げる」といいますが、本当に時の流れは速いものです。今、芳賀北小学校では、本年度の締めくくりと来年度への準備が始まっています。その中で、6年生から5年生へ「はがきた当番」の引継ぎが行われました。この1年間、北小のリーダーとして、自分たちのできることをしっかりと行い、下級生を導いてきた6年生。その姿を見て、5年生は、バトンを受け継いでさらに成長し、北小のリーダーとして活躍してくれることでしょうか。とても楽しみです。

ところで、この1年間で、お子様ができるようになったことは何でしょうか。朝、私を見つけると、遠くからでも心のこもった挨拶をしてくれる子。勉強で、こんなことができたよと作った作品を見せてくれる子。しっかりと清掃に取り組み、褒められたことをうれしそうに話す子。そういう子がたくさんいます。他の人に自分の心を伝えることが上手になったと感じています。一人一人成長していく速さは違いますが、確実に成長しました。学校生活だけでなく、家庭での御協力があつたからこそ成長しているといえるものです。6年生は卒業となりますが、中学校への進学を含め、学びは生涯続くものです。子どもたちが学び、より成長していく姿が見られることは、私たちの大きな喜びです。保護者の方も同じだと思います。その喜びをもっともっと味わえるよう、成長の手助けをしていきたいと思っています。



## 学び合い学習の成果が出ています!!

芳賀町の3つの小学校では、「みんながわかる、みんなでわかる」をテーマに「学び合い学習」を行っています。これは、主に算数の授業を中心に行われているもので、児童が課題から気付きを発表し、問題やめあてを作り、解き方の考え方をみんなで考えながら進めていくという、児童が主体的・対話的で深い学びを目指す授業です。昨年度から実施しているものなので本年度は2年目となるわけですが、その成果がしっかりと表れています。勉強は、ただ説明を聞くだけではなかなか理解することはできません。この「学び合い学習」の授業は、自分たちでわからないことを教え合い、聞き合い、説明し合いながら進める授業なので、理解力も高まると言われています。本年度は3回の研究授業とそれに伴うプレ授業や授業研究会を行い、先生方のスキルアップも行いました。これらの成果が徐々に、しかし、確実に表れており、算数だけでなく他の授業でも学び合う姿が見られます。さらに学習方法を理解し、最終的には学力アップを図ることができるよう期待しています。



## ★ 3月の行事予定★

- 1 (月) 登校バス早便、遅便交換
- 3 (水) 6年生を送る会
- 4 (木) 交通安全教室
- 8 (月) 自主学习強調週間(～3/14)
- 10 (水) 通学班の話合い
- 11 (木) 巡回相談
- 12 (金) 清掃がんばりデー①
- 15 (月) 卒業式準備(5年)ブレインジム(3年)



- 16 (火) 卒業式予行 賞状伝達
- 18 (木) 卒業式準備(4, 5年)
- 19 (金) 卒業式
- 22 (月) 巡回相談
- 24 (水) 修業式 賞状伝達
- 25 (木) 学年末学年始休業(～4/7)
- 4/8 (木) 始業式
- 4/9 (金) 入学式



# ☆児童たちの活躍・学校生活の様子☆

【学び合い学習】(6年)



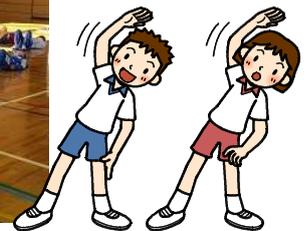
(1年)



(3年)



【ブレイジングム】(2年)



## 花見と言ったら「梅」だった？

春になると、日本中を鮮やかに彩ってくれる桜。当然の如く、花見と言ったら「桜」だと思のですが、奈良時代には「梅」のほうが人気だったといえます。

寒い中、いち早く春の訪れを知らせる梅の花は、1月下旬～5月上旬まで、約3ヶ月間かけて、ゆっくりと日本列島を北上します。その歴史は古く、約1500年前、中国から薬用の「烏梅(ウバイ)」として伝来したと言われていました。現在でも漢方薬の1つだそうです。ウメの語源は「熟む実」「うつくしくめずらしい」からきた語だとか。そんな「梅」は、約1100年前頃まで行われていた遣唐使を介した中国との貿易で日本にもたらされたといえます。香り立つその花は珍重され、桜よりも人気だったそうです。その人気ぶりをうかがわせるのが現存する日本最古の和歌集「万葉集」に詠まれた歌の数です。桜を詠んだ歌は40首余りであることにに対し、梅を詠んだ歌は110首以上だったそうです。なんと倍以上です。当時の貴族の優雅な風習といえは、「歌を詠むこと」でした。中国からやってきた梅を見ながら歌を詠む会を開いた、これが現在の花見の原型になったと言われていました。

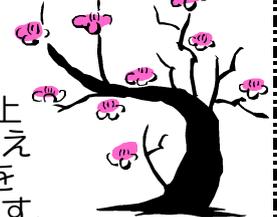
新型コロナウイルス感染症の流行により、ちょうど1年前頃から外出が自粛されていたため、去年はなかなか花見というわけにはいきませんでした。今年も状況的には厳しいようです。少しでも早くコロナの収束を願いたいと思います。終わりはまだ見えませんが、もう少し我慢の生活を心がけ、なんとか収束させていきましょう。

梅について調べていたら、万葉集にこんな歌が出てきました。

**「年のほに、春の来らば、かくしこそ、梅をかざして、楽しく飲まめ」**

(毎年、春がやってきたら、こうして梅を髪に挿して、楽しく飲みましょう。)

梅をかんざしにとは粋ですね。ゆっくりと楽しい気分の花見がしたいものです。来月の学校だよりでは「桜」について調べ、書きたくなりました。とにかく、花を愛でることができる余裕と、美しい心をもって生活したいものです。



※芳賀北小ホームページでは、カラーで学校だよりを掲載しています。ぜひ御覧ください。